

にいがた 食の歳時記 ～枝豆～



梅雨に入り、何だかじめじめする。人は、こんな時にビールが呑みたくなるのだろうか。ビールのつまみと言えば、枝豆。枝豆といえば新潟県。新潟県民の枝豆愛は、その辺の人には負けない。作付面積が日本一なのに、出荷量は全国で7位かそこら。つまり、人に食べさせるより自分が食べるのだ。新潟の枝豆は、成長の早い段階で収穫をする。丁度味の良い時期を狙うと、そうなるらしい。だから、他と比べて小振りではあるが、おいしい。おいしいものは、おいそれと人に渡したくないもの。6月～10月のほぼ半年にわたって食べられる枝豆。茹でるだけでなく、いろんな食べ方がある。さて、今日はどんなふうに使おうか。

喜怒哀楽

詠み人応援マガジン・詩歌俳壇ニユース

「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミュージック・コーポレーション喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

6-7
Vol.104

温古知新 ⑤⑥ 「菜根譚」28

雨が續くと、なんだか気分もどんよりしてきますね。そんなときは、この「温古知新」で、気分転換でも！

人心の一真、便ち霜をも飛ばすべく、城をも隕すべく、金石をも貫くべし。偽妄の人の若きは、形骸は徒に具わるも、真宰は己に亡ぶ。人に對せば則ち面目憎むべく、独居すれば則ち形影自媿す。

(人の心の真実というものは、それが通じると、夏に霜を降らし、城壁を崩し、金石も貫くことができる。これに対して、偽りの心を持ったものは、肉体だけで肝心な本心がない。だから、人前での顔は憎たらしく、自分一人の時は自分の姿も嫌になってしまふ。) 心の持ちようというのはいよいよ大事で、正しくあれば奇跡のようなことも起こせるのです。

文章、極処に做し到れば、他の奇有ること無し。只是れ恰好。人品、極処に做し到れば、他の異有ること無し。ただこれ本然。(文章を極めれば、他に新しいことはない。ただ、相応の世界があるだけだ。人格を極めれば、他に特異なことはない。ただ、本質の世界があるだけだ。)

何事も、極めた人へのみ辿り着ける境地があり、それが「悟り」というものなのかもしれない。

幻迹を以つて言えば、功名富貴を論ずる無く、即ち肢体もまた委形に属す。真境を以つて言えば、父母兄弟を論ずる無く、即ち万物も皆吾一体なり。人、能く看得破り、認めて得て真ならば、纒に天下の負担に任うべく、亦た世間の韉鎗を脱すべし。

(幻の様な現実の世界で言えば、手柄を立てて名を残すことや財を築くことなどは論じるまでもなく、肉体もまた、借り物なのである。本質の世界で言えば、父母兄弟は論じるまでもなく、万物は皆、自分と一体なのである。人はそれをよく見て悟り確信したら、天下国家の大役を負うことができ、俗世間のしがらみを超越することができるだろう。)

万物みな自分。それを知り得てこそ、人の上に立ったり、大役を果たせる人物たりえるのです。

今回は一〇四項までをお伝えしました。何事も己の内から。気を引き締めてまいりたいものです。

(古川久美子)

「東京ふうが」 お茶の水俳句会

指導 墓目良雨様

(東京都・文京区)

5月13日(月)、文京区民センターで行われた「東京ふうが」お茶の水俳句会にお邪魔しました。昭和57年、俳誌「春耕」顧問の故高木良多氏によって神田駿河台下で産声を上げたこの「お茶の水俳句会」は、本日、令和元年最初の5月句会で410回を数えます。現在指導に当たっておられるのは、「春耕」同人・編集長の墓目良雨様。有季定型の伝統俳句を根底に、都会の郷愁を掬い取って俳句に結実させるべく活動を続けています。

本日は「修司忌」「四月尽」「祭」の兼題3句と、席題「繭」ほか当季雑詠の計6句出句の5句選。席題である「繭」の現物が手元に回ってきて、それを見ながら即興で「繭」の句を作り、選句もし、となかなか忙しい。墓目様より「繭」に関して「小さい頃、近



▲俳句もお手の物の墓目良雨様

くに乾繭所があったが、蚕を育てた経験のある人、ない人がいる。あまり生活に密着していない季語だから難しかったと思う。松谷さん、刺激的な席題でしたね(笑)」とご挨拶。披露に続き、特別選者4名が特選3句を選ぶ。

● 松谷富彦 特選

古書街をくの字曲りに山車を曳く 良雨
お神輿や揺さぶるほどに町の沸く 綾子
夏祭いなせな鳶の木遣り唄 まさみ

● 深川知子 特選

千代紙の小箱に捨蚕句ひけり 瑛子
最後の句ひけりと、千代紙という可愛い小物の取り合わせがいい。嗅覚の効いた句。
隠れ吸ふ煙草にむせぶ修司の忌 良雨

修司が煙草を吸っている写真があったように思う。修司忌のお手本みたいな句で「隠れ吸ふ」が修司らしいと感心した。

日輪の溺れるほどに田水張る 絵津子
一つ家をまるまる映し代田水 若子

両句ともとても気持ちのいい句で、どちらにしようか迷ったが「溺れるほど」という表現でこちらをいただいた。でも、本当に一つ家も捨てがたかった。

● 乾佐知子 特選

民話聞く真白き繭を手のひらに 知子
民話と繭という言葉がうまく取り合わせている。

新繭の尊き糸を引出せり 英子

家が呉服屋なので、絹の糸の尊さをもとても感じる。糸が尊いという言葉

▲平成17年発行の季刊俳誌「東京ふうが」(B5判)は現在通巻56号
見本誌1冊500円(切手可)
申込 11210001
東京都文京区白山2-1-13 東京ふうが社



よく使ってくださいと、句を見た瞬間すぐにいただいた一番好きな句。

日輪の溺れるほどに田水張る 絵津子

この前、田水が満々と張られた、非常にきれいな田園風景を見て来た。そこに日輪が溺れるようだという表現、良くできている。

● 鈴木大林子 特選

出発の笛にたかぶる祭り馬 佐知子

馬は神経が過敏で少しいことで興奮する。出発の笛がどういう意味を持っているか、馬は知っているらしい。競馬も同様で、人間はそれを利用してゐる。魅力のある句。

下鴨の参道長し森若葉 征子

下鴨神社には長い参道が、碁盤の目のようになっていて。ストレートになつていてところがとても長い。その周辺に広大な糺の森があり、改めて道の長さには驚いた。

日輪の溺れるほどに田水張る 絵津子

日輪が溺れるなんてことは実際にはないわけで、完全な誇張だが、太陽が

溺れるかの如く田水がたくさん張っている。田水の張り方の景がよく出ていて、上手い。

● 続いて 墓目良雨 二重丸◎の句

修司忌や戯れに擦る古マツチ 洋子
最近あまりマツチを使わないが、台所の隅で探していると結構出てくる。点くか点かないかわからないが擦ってみた、ということだと思ふ。この「戯れに擦る」だが、人生すべて戯れみたいなものでしょ。これで、世界がぐつと広がった。いかにもパーでもらったようなマツチではなく、どこかに残っていた古マツチというのもいい。

民話聞く真白き繭を手のひらに 知子

説明のような句ではあるが、東北にはお蚕様にまつわる民話がある。「この繭が」と手のひらに繭をのせて、話して聞かせる語り部がいたので、う。素直なわかりやすい句。

權の音の遠ざかりゆく四月尽 瑛子

普段の四月尽なら意味が取りにくいですが、今年の四月尽ということをおいて鑑賞しないとイケない。平成から令和に変わった時代に、權の音が遠ざかっていく。一つの時代が遠ざかっていくことを連想させる効果がある。似たような句に

肩の荷を下ろす人あり四月尽 民男

があり、意味はわかるが「人」だと一般の人が肩の荷を下ろすようで、上皇まで思いが及ばない。「肩の荷を下ろしたまへる四月尽」などとすると、なんとなく高貴な人が肩の荷を下ろし

たと想像できるのでは。上皇のこととわかる表現、仕掛けが必要。

仲見世といふ花道を荒神輿 絵津子

浅草の三社さんの祭りだと思いが、うまいことをいうなあと思った。確かに、あんなに狭い仲見世を神輿がどうやって通っているのだろうと想像してしまう。しかもそこは担ぎ手にとっても花道、見る人にとっても花道。「仲見世という花道」が効いている。

日輪の濁れるほどに田水張る 絵津子

これは「濁るる」ではないか。様々に感想があったが、まさにその通り。「ほどに」で比喻だとわかるが、表現も的確でいい。

● 一重丸〇の句

修司忌の森に水音鳥のこゑ 純

悪童に俳句詠ませよ修司の忌 民男

修司忌や棧敷に残る煙草跡 知子

黒々とうねる梁、蘭問屋 絵津子

野の草を引けば五月の雨香る 綾子

山藤に山が重たくなりけり 絵津子

海峽へ銅鑼の一打や四月尽 知子

牡丹の散り際はしき修司の忌 久枝

荒神輿旧街道を踏み鳴らす 瑛子

● 添削した方がいい△の句

修司忌や鬘ひだいたまた鋭とどき津軽富士 絵津子

「鬘」だとただ山の褶曲したところだが、おそらく今の時期はまだ雪が残っている。そうするとはつきり言わないと。「修司忌や鋭き雪鬘の津軽富士」というと実感がある。色彩的にも雪鬘がまだ白く見えているとわかる。

繭玉を振りてかすかな音嬉し 佐知子
繭玉はお正月のもの。作句した本人も玉繭の間違いだったということ。「玉繭を振りてかすかな音嬉し」でいい。

お神輿や揺さぶるほどに町の沸く 綾子
「お神輿や」だと切れてしまい、何を「揺さぶる」かわからない。「お神輿を揺さぶるほどに町の沸く」だと、はっきりすつとわかる。

修司忌や夜の新樹のみずみずし 瑛子
いいと思うし意味はわかるが、少しゴテゴテしている。要するにリズムが悪い。「修司忌やみずみずしきは夜の新樹」にすると、修司忌らしくなる。玉ねぎを多目にサラダ修司の忌 綾子

なんとなくわかりづらい。「玉ねぎを多目のサラダ修司の忌」の方がいい。目的はよくわからないけど。作者：修司に玉ねぎの有名な短歌があつて、それで玉ねぎに(笑)。

逆立ちで歩く少年四月尽 佐知子
四月尽で逆立ちだとなんとなくぴんとこない。四月尽じゃなくて「逆立ち



で歩く少年修司の忌」にしたらなるほど、となる。
一同…なるほど(笑)。

ササササササササササササ

墓目：あと何かご質問は？
男性：「遺伝子が告げる神田の夏祭」の句、代々神田で育った人間は、本人が忘れても生粋の遺伝子が祭りを憶えているという意味で作ったが…。

墓目：遺伝子が活きる場合もあるだろうが、この場合ちよつとぴんとこないのではないか。昨日、一昨日とちよつど神田祭だったが、神田祭で句を作るのは非常に難しい。久保田万太郎に「神田川祭りの中を流れけり」という句がある。神田川という名前があるから神田祭の時に出て来るが、実際は神田祭ではなく、台東区の方の別の祭りを詠んでいる。池上浩山人という、神田小川町で和綴じ本製本の家業を継い

だ装演師(書画を表装する人)に、「書痴われに本の神田の祭かな」という句がある。書痴は書物バカのこと。その句を目標に作っているが、なかなかできない。やはり神田祭は難しい。

★ちよつど句会の前日、前々日はすぐ近くで神田祭があつたこともあり、今回の兼題の「祭」も実にタイムリー。「東京の下町に転がっている俗から風雅の誠を見出すこと」を目標に句作りをしているという面々の俳句は、日頃見ているだろう風景や事象を、そんな切り取り方や表現があるのか!!と唸ってしまったような秀句ぞろい。季語の奥行きや真意、日本語の豊かさを、改めてつぶさに見せてもらったような会でした。(木戸敦子)



▲俳句にとどまらず俳句地誌、俳句紀行文、作家研究、エッセイと活動のフィールドを拡げている多士済々な皆さま

山岡蟻人様

『句集 蟻旅する』

(千葉県・館山市)

■ 昨年7月、句集『蟻旅する』を発行した山岡蟻人様に南房総の里山にあるご自宅でお話をお聞きしました(1/5)。

■ 自然豊かなところにお住まいですね

最初は千葉の高校で生物を教えていた。次第に環境教育にシフトし、中野区の中高一貫の学校に異動してからは、地元で教材を探して生徒と地層を見たり水質を調べたり、今でいえばプラタモリのようなことを授業に組み込んでいった。自分たちの住んでいる地域を調べ、どう住みやすい街にしているのか、そういうことを子どもたちに課していると次第に自分の生き方も問われてくるんだよね。そこで、食物とエネルギーを最大限自分で創り出す生活をしようと、適した土地を探し、最終的には60歳でここに落ち着いた。

■ 俳句との出会いはその頃に？

退職する前、詩に凝っていた時期があり、田村隆一を真似て作ってみたが



▲自身の手編みによるお気に入りのセーターを着て(Facebookより)

文学的センスがない。俺には無理だと思っていたとき、俳句を始めた友人に誘われた。ある程度力をつけるには結社に入った方がいいということで、著書を読んで気に入ったのが辻桃子。かなりまともなことを言っているし、あつからんとしめていてフィーリングが合った。でも俳句は楽しいが好きではない(笑)。

■ 今回は第二句集ですね

第一句集の『蟻耕す』は農業の句が中心。熱帯林に関心があり、現役の頃から東南アジアや中南米に10回ほど通った。次第に海外の景も俳句に詠み始めたが、あちらは一日のうちに様々な季節がある。高い値段だったが、古本屋で虚子が提唱した熱帯季語が収録されている『新歳時記』(昭和16年)を入手し、今回のアマゾン行きを最後に句集に収録する熱帯林での吟詠を増やすつもりでいた。その時、ちょっと咳が出るので受診したら肺がんだった。それが3年前。負けないよう、3食作ってしっかり食べ、治療もいろいろやったが、今は使える抗がん剤がなくなり治療はしていない。今後は緩和ケアに思っている。

■ ユニークな句集です

まず第一句集に掲載しなかった句をジャンル別、国内・国外別に分けた。国外は北極圏もあるがほとんどが熱帯。そこに雰囲気合う写真を合わせ、世界を回り日本に戻ってくるという視点で構成した。最後の写真はブータンのマニダルという白い旗。ブータンではお墓を作る習慣はないから、亡くなった人の霊をなくさめるため峠道に旗を



▲サイズも在り様もユニークな句集『蟻旅する』題字は「童子」辻桃子主宰の手による

立てる。「あの写真を見たら涙がぼろぼろ流れた」という感想を寄せてくれた人がいたが、それは意図したところ。先はないが、第3句集は俳画を入れようと思つて。見開きの片方には俳画と1句、もう片方には3句入れ、全部墨1色で和紙に刷って、200部くらいを自分で和綴じ製本してね。

■ 俳句、好きなんじゃないですか(笑)?

とりあえず、明日は津田沼の句会に参加する。人がいると楽しいしね。たかが同じ県内の句会だけど、これ(酸素ポンペ)を引きずりながらで体力的なこともあるから1泊泊まりで。ここ2週間、味覚がおかしくなっているし食えるかどうかどうかわからないが、明日はトンカツ定食を食ってやるるかと思つて(笑)。

■ すごいガッツです

昔から出る釘は打たれるのに慣れてる。違うことすればバッシングにあう。でも仕方ない、新しいものを創り出すのが好きなの。句集もそう、ありきたりはいや。俳句は、骨太で泥くさい一茶のような句を作りたい。農民で

あの勉強ぶり、絶対に負けないという気力、見習うべきだよ。人や動物、生き物に優しいしね。

句集『蟻旅する』より

培養土百袋積みて夏兆す
遠くよりどすんどすと夕立くる
舟べりを掴み大河の昼寝かな

★ご自宅にお邪魔したのはこの日が2度目。ぶつさらぼうだが、話せば饒舌で「最初『喜怒哀楽』の情報誌を見たとき、地方なのに女ばかりでがんばってる変な会社だなーと思つてたんだよ」と。お天気もよく、外に行こうと仰つたが苦しくなり、玄関に並んで腰かけお話を聞いた。晴耕雨読、日々の料理や近況、遊びに来た教え子たちの様子をFacebookに発信し、土と自らを耕し続け、自身のめざす生き方を貫いた人生。昭和・平成、そして新しい時代令和元年になった5月1日に逝去された。「やせ蛙負けるな一茶これにあり」のごとく、負けん気魂で今生を生き切つた今頃は「蟻旅する」の通り、世界を自由に旅していることだろう。(木戸敦子)

春爛漫な自宅のお庭で



▲影しい数の書籍とCDが入った書棚がいくつも、さらに倉庫まで作つたほど

投稿作品

短歌

※誌面の都合上、300作品を超える投稿があった場合、掲載はお一人さま1作品、
先着300名様までとさせていただきます。今回の投稿作品数は、246でした。
※しめきり 2019年7月16日(火)まで ※作品は原稿どおりに掲載しております。

- 1 大惨禍飢う世も知らぬ政治家の嘘
隠蔽の国会憂ふ
黒澤正行(福島県)
- 2 手をひかれ歩む幼の後につきじぐ
ざぐに行く投票所まで
阿部 至(埼玉県)
- 3 薄着して春に引かれる罪の人半世
紀後に前職想ふ
早坂絃司(北海道)
- 4 花びらはちようのごとく舞い降りて
地面くるくる風とたわむれ
大鳥居牧子(東京都)
- 5 梅雨日和亡き犬想いラーメンを供
えて祝うお誕生日
大橋絵代(千葉県)
- 6 ICU十三本の管^{なが}下り眠れる夫の
生命を計る 寒川靖子(香川県)
- 7 武蔵野の疎林のなかに微塵だに動
くものなし夕陽走りて
青木日出男(群馬県)
- 8 「透析は痛い」と泣く82歳涙の夫を
ただ抱きしめる
濱崎祥子(鹿児島県)
- 9 『杏紅葉』歌集もらしいし友の住む千
曲あんずの里訪ねたし
桑原謙一(群馬県)
- 10 波立てず祈りをもつて過ぎたし
若き世代と違いも大きく
野木宗信(奈良県)
- 11 伊勢参令和発表同じして記帳記念
に勾玉得 宇都木安子(東京都)
- 12 改元の朝の静寂を揺るがして一際高
き雉子のなき声
田中豊恵(新潟県)
- 13 さつき晴れ昭和平成生きぬいて「令
和」の時代満腔に抱き
鷲谷浅子(茨城県)
- 14 市議選を四期もかつぎ上位なり疲
れも頂点花束贈呈
高須 孝(愛知県)
- 15 五年ぶり福島視察した総理全員復
興大臣と言う 坂元正憲(東京都)
- 16 老の面陰りて沈む隅田川我子梅若の
回向ぞ哀し 内藤明子(東京都)
- 17 足病みの我を支えし君の手のぬくも
り感ず時は過ぎて
峯岸信子(東京都)
- 18 離れ住む夫の訃報を聴く朝に春雷
はげし夢か現実か
岩崎令子(大阪府)
- 19 令和なるブラックホールに閣僚の失
言続き桜舞い散る
関原幸子(東京都)
- 20 てふてふとデュエットしたし翁われ
春風そよぐ木立の中で
久本にい地(岡山県)
- 21 二度手間に整理のつかぬ年賀状六
桁なんか当らぬものを
石尾曠師朗(東京都)
- 22 ぶすいなる顔して田畑広がりぬ春の
陽のみが笑顔に見える
高橋登志子(新潟県)
- 23 孫二人の寝顔みとれて心決め憲法守
れと五三デモに行く
合田浩子(茨城県)
- 24 桜花散り敷く中に鳥達の枝を移り
てとびたちてゆく
中沢敬子(千葉県)
- 25 そよ風に吹かれてポストへ回り道春
の香の中歩み
渡部美代子(山形県)
- 26 平成の退位めでたく記念の日ひ孫誕
生戸籍に息吹く
守安幹男(岡山県)
- 27 今の世は何れの邦も内向きでトラン
プ真似る異常者ばかり
中村万年青(京都府)
- 28 満天星の花一斉に並び咲く音無き音
を奏できるように
早坂保文(宮城県)
- 29 おほかたは順ふ暮らし米寿過ぐる
ままを生きる妻杖にして
村山徳英(埼玉県)
- 30 夜叉をなご世に憚りて恥かしや越後
乙女の種は尽きしか
高橋卓二(新潟県)
- 31 荒れ果てた空き地にひとつハナミズ
キひっそりとたつ主なき今
森 由恵(奈良県)
- 32 柔かな風の戯むる子持嶺の緑の筋肉
盛り上げる 島田實貴男(群馬県)
- 33 春霞いつでも見えた山々は全然見え
ず心もしづむ 新井 賢(埼玉県)
- 34 老人の味方は時^{とき}間の余りある
大木和男(東京都)
- 35 行かぬのがご供養になる家族葬
丸山芳夫(東京都)
- 36 アルバムの父は軍服お兄さん
細川光子(栃木県)
- 37 炊き立てが旨いまだまだ生きられる
木村洋一(新潟県)
- 38 古来から桜より梅情緒詠み
石原 岳(群馬県)
- 39 てんぶらを囲んだ家庭いま二人
鈴木義雄(福島県)
- 40 令和にもこれから永く世話になり
長谷川庄二郎(千葉県)
- 41 平成か貧だが平和でよかった
原 崇雄(埼玉県)
- 42 政治家は言つてはならぬ四月馬鹿
濱田イサオ(福岡県)
- 43 生きている明日この道がまだおもしろい
小山恵美子(大阪府)
- 44 待ち遠し元号またぐめおと旅
久保壽雄(北海道)
- 45 生きているだけで毎日忙しい
守屋高雄(岩手県)
- 46 脳トレに筋トレ今や老の道
佐伯セツ子(香川県)
- 47 中学生おさな顔にも気が芽吹く
奥 那於子(大阪府)
- 48 浮かぬ顔知っていますよ鍋釜が
関本 守(新潟県)
- 49 国会にウソ発見器欲しい国
橋本世紀男(東京都)
- 50 糊きいた二人の浴衣ドラマ生む
岩崎弘舟(岡山県)



俳句

- 51 毎日を生きるがしっかり足みつめ
松田義登(福岡県)
- 52 元号が令和になって何変わる!?
和崎治人(山口県)
- 53 老いたけど新年号と共に生く
西山知子(岡山県)
- 54 花筵女の尻の混み合へる
二瓶邦枝(埼玉県)
- 55 岸辺の桜築城のむかしより
川口 襄(埼玉県)
- 56 ふらここや蹴り上げてみん昼の月
小島岳青(新潟県)
- 57 足元に並ぶ道野辺つくしんぼ
竹本美美子(新潟県)
- 58 平成の名残の尽きぬ春の雷
齋藤麦堂(新潟県)
- 59 令和となり余命幾許風薫る
井原毬子(東京都)
- 60 平成の御世の結びを花吹雪
環 順子(東京都)
- 61 花ひらく心うららか天仰ぐ
田中恵美子(山形県)
- 62 三代の雛を飾る袖の家
片山茂子(埼玉県)
- 63 脚本にない愛演じ老いの春
松田重信(埼玉県)
- 64 聞き取れぬ声を聞きをりアマリリス
天野輝子(東京都)
- 65 五月晴れ飲む里山の岩清水
西條公雄(埼玉県)
- 66 笹団子食べ食べ測る背くらべ
湯浅暉子(石川県)
- 67 満開の桜母校の門のころ
井上氣海(広島県)
- 68 おらが味寄せ合ふ煮染花の下
三津木俊幸(千葉県)
- 69 ぼんぼりの花の下なる太鼓橋
古谷 力(東京都)
- 70 みたき花みをへしやよさのあきこの
忌 安部 哲(新潟県)
- 71 夕焼を紫雲英の花輪首にして
磯部 力(新潟県)
- 72 帰還兵なる夫と並びて靖国祭
檜山柚子香(東京都)
- 73 達磨さんが転んだ釣瓶落しかな
井上静夫(栃木県)
- 74 麻酔さめ「生」の実感風光る
長峰正晴(千葉県)
- 75 すずらんの群生我はぬかづきぬ
鈴木清子(埼玉県)
- 76 藤波の呂律整ひ風生ふる
九法活恵(埼玉県)
- 77 金箔の擬宝珠に翳り月の夜
高崎登喜子(東京都)
- 78 コンサート貴き心音梅雨晴間
内河邦久(東京都)
- 79 決闘の羽根の乱るる庭に春
多田文代(東京都)
- 80 新たななる世に夢託す聖五月
大谷 茂(埼玉県)
- 81 元号の令和に決まる名草の芽
平山千江(岩手県)
- 82 梅の香や兜太を偲ぶ男酒
山崎吉晴(群馬県)
- 83 戦争の愚かさかづく爆心地
福岡 悟(東京都)
- 84 風の意のままに揺れをり雪柳
杉原明子(静岡県)
- 85 袖着てシネマ歌舞伎や林住期
松尾らん(東京都)
- 86 入学式式場と特筆大書旋風
岩村 昇(神奈川県)
- 87 妻と五十三年「春が来た」を聴く朝
白松いちろう(千葉県)
- 88 磨ぎ汁をさす新草に薄日かな
溝畑美代子(埼玉県)
- 89 老いて尚たゆまぬ歩み春惜しむ
道給一恵(埼玉県)
- 90 語らひの動かぬ二人春日傘
堅田秀子(東京都)
- 91 平成を綴じる画帖や春逝けり
佐々木素風(新潟県)
- 92 母と子で同じ色選る朝顔市
すずき笑子(東京都)
- 93 上向いて生きな豌豆蔓の先
湯浅芳郎(岡山県)
- 94 ほととぎす現世来世を鳴き交す
津田卿雲(岡山県)
- 95 津波去り御霊鎮めん春の海
古閑智子(神奈川県)
- 96 雪卸す筈となりて息白し
上村元義(神奈川県)
- 97 つくしんぼ思はず摘んでみたりしが
高松玲子(埼玉県)
- 98 散る花に翳す手の老首導犬
寺内 佶(埼玉県)
- 99 通院樂し今日は花散る遊歩道
大阿久雅子(埼玉県)
- 100 ラマンチャの道化役者や夏芝居
島村幸重(兵庫県)
- 101 令和なる老舗のれんの柏餅
中田文子(大阪府)
- 102 梅老いて桜に託す季の艶
林 克(福島県)
- 103 うららかや猫と阿吽の暮してふ
日名子春実(群馬県)
- 104 令和なり昭和もセピアに衣がえ
阿部澄江(宮城県)
- 105 百歳までも元号四種生ききやも
阿部徳夫(宮城県)
- 106 海無しの県に海の香浅鯛売
吉里ひとみ(東京都)
- 107 春の宵ブラックホールは夢の中
近藤富夫(東京都)
- 108 天筆や希い事乗せ宙を舞う
齋藤博洋(秋田県)
- 109 叱る父諭す母なき豆の花
関山恵一(神奈川県)
- 110 気忙しく祥月参りの梅雨晴間
貝瀬光洋(神奈川県)
- 111 春光に塗れし子等の破顔かな
置鮎隆一(千葉県)
- 112 さびしさに母の浴衣を抱きしめる
伊藤久枝(埼玉県)
- 113 高原の富士よりの風鯉職
神 一男(静岡県)
- 114 暮れぎはの急ぐ足元しやがの花
赤池英津子(東京都)
- 115 流れ海苔漂泊といふ海匂ふ
北野耕兵(千葉県)
- 116 糠まみれ湯がき筍釜の中
津布久信雄(東京都)
- 117 花冷えや古布に糸刺す絹の音
小田ゆかり(新潟県)
- 118 プラトニッククラブでもいい草餅買う
居原田暹(大阪府)



- 119 法事修え家系図説明する日永
堀木和子(大阪府)
- 120 どこまでも花蕊は深き八重桜
近藤ともひろ(千葉県)
- 121 萼のまま花の散らばる筵かな
星 一子(神奈川県)
- 122 チューリップ朝日に開き音かすか
杉村美保子(岩手県)
- 123 目印の白旗立てる暮の春
光成高志(千葉県)
- 124 覆ひ取る緋鯉浮き来て春を唾へる
夏井寛治(新潟県)
- 125 花と息合ひし肺腑のやはらげる
望月謙一(東京都)
- 126 春宵や言祝ぐ令和新元号
有坂馨園(福島県)
- 127 山門に木魚の訝法然忌
田中 昶(鳥取県)
- 128 誘はれて今日充足の花疲れ
川嶋法子(東京都)
- 129 開通式列車は春の日を返す
中島光江(埼玉県)
- 130 初春や米寿の関を無事に越え
佐野和彦(静岡県)
- 131 夜桜や少し偽る廻り道
小澤田梨(静岡県)
- 132 夜桜の吐息のやうな走り雨
本庄準也(埼玉県)
- 133 黒潮の流るる鳥や花蜜柑
平林義康(兵庫県)
- 134 遠霞もうひと山を越えるのみ
岩田 信(神奈川県)
- 135 雨の夜行きかう人もまばらかな
原田治男(東京都)
- 136 草餅や母のやさしさ思い出す
五味田幸夫(東京都)
- 137 平成も果てのよもぎや仏ダんに
中嶋清子(佐賀県)
- 138 春休み東京駅を国訛り
伊藤 修(埼玉県)
- 139 七十の我に母あり桜餅
村田吉雄(東京都)
- 140 草笛の吹けて涙の乾き初む
小林七重(新潟県)
- 141 身の丈で生きて良しとす春の宵
青木ケン子(埼玉県)
- 142 クルーズで妻と乾杯生ビール
間森 坦(兵庫県)
- 143 真青なる空に桜の大手門
大塚徳子(埼玉県)
- 144 湯けむりに二人の夕餉ひなの宿
本間 進(新潟県)
- 145 孫まちてそつと見上げる春の空
本間ミネ(新潟県)
- 146 さくら散る残りたる葉の輝きぬ
清まさじ(静岡県)
- 147 廢駅や大樹花満ち人集ふ
渥美 保(滋賀県)
- 148 花と雪共演ありし四月尽
鏡たか子(山形県)
- 149 満月を池面にうつし花筏
長谷部喜代子(大阪府)
- 150 青空と桜並木と大極拳
井田由利子(宮城県)
- 151 はぐれても風に乗り舞へ蜆蝶
若月理依子(新潟県)
- 152 啓蟄や往時をかたる座禪石
中野勝子(鹿児島県)
- 153 無住寺の絡み咲きたる鳥瓜
白戸麻奈(東京都)
- 154 令和令和とて東京タワーも遠く霞み
けり
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 155 新品の定期券入れ朝桜
一瀬正子(埼玉県)
- 156 鉤を振る土に浸み込む玉の汗
松前邦広(千葉県)
- 157 紹羽織の葉根譚の教へかな
桜井葉子(千葉県)
- 158 葉桜や列を乱さぬ一年生
齊藤安弘(神奈川県)
- 159 たんぽぽや寒い雪原超えて朝
五十嵐睦博(新潟県)
- 160 トネルの長さを抜けて紫木蓮
土肥 勲(千葉県)
- 161 発表会文化の日決まり令和かな
坂本暁子(東京都)
- 162 南天の花がこぼれて路地暮し
服部八重子(東京都)
- 163 曾孫の名は優太郎なり初節句
宇田川正雄(埼玉県)
- 164 火山噴く島津別邸楠若葉
坪田勝秀(鹿児島県)
- 165 遠い日と昭和はなりて青春想ふ
中川義彦(新潟県)
- 166 静けさに牡丹崩るる真昼かな
鈴木公子(千葉県)
- 167 初桜象のしっぽのゆれにけり
喜龍けん(滋賀県)
- 168 若葉雨句座のコーヒーあまやかに
清水君江(埼玉県)
- 169 田から田へバズルのごとし五月富士
椋本望生(大阪府)
- 170 母刀自の形見の色に更衣
高野ほづ子(千葉県)
- 171 古書広げ衣類も広げ苗木市
佐藤 信(神奈川県)
- 172 片隅で負けじと伸ぶる余り苗
今井勝子(新潟県)
- 173 沖繩忌チビチリガマの千羽鶴
中村康浩(福岡県)
- 174 贈られし米寿の旅や花満ちて
岡村君枝(茨城県)
- 175 代替わり町医者健在春の風
中山日出子(大阪府)
- 176 群生の百合一湾の光浴び
大窪美代子(大阪府)
- 177 ありし日は食みしと母の黄たんぽぽ
倉沢ひとみ(静岡県)
- 178 遺言書認め筆置く暮の春
吉村充治(埼玉県)
- 179 八月も下ねたもくたびれてゐる
若林卓宣(三重県)
- 180 幸せかいと夕焼に問はれけり
佐山苑子(神奈川県)
- 181 千年の古刹全山青嵐
安田芳江(茨城県)
- 182 色褪せし武者人形も喜寿の年
小泉芝雲(千葉県)
- 183 四十路と八十路同じ七坂花は葉に
高垣勝代(大阪府)
- 184 もみじの手ママが肩よせにつこりと
田村よし(茨城県)
- 185 柳絮飛ぶ街道辻の別れかな
高草久枝(東京都)
- 186 病室の朝の明けるはいとおそし
浅海和代(東京都)



フォトイック

こちらの写真を見て詠んでいただきました。



(写真提供:伊丹三樹彦さん)

- 199 広目天われに慈愛の詩心を
有田裕子(北海道)
- 198 目を閉じぬ令和の平和見届ける
小山恵美子(大阪府)
- 197 絹索を握りて不動春秋
九法活恵(埼玉県)
- 196 葉桜となりし山門御辞儀して
鈴木清子(埼玉県)
- 195 座してても悪者通さぬ眼の力
長峰正晴(千葉県)
- 194 九本のまらを見比べものたりぬ
安部 哲(新潟県)
- 193 相棒が留守で寂しい仁王さま
長谷川庄二郎(千葉県)
- 192 魔を寄せぬ阿吽の眼五月間
三津木俊幸(千葉県)
- 191 聖五月生きる力を与へよう
天野輝子(東京都)
- 190 ほんとうは心やさしい水でした
松田重信(埼玉県)
- 189 阿吽の相や思ひ出す春の旅
片山茂子(埼玉県)
- 188 閻魔大王の阿吽の阿なり夏は来ぬ
井原毬子(東京都)
- 187 歳重ね佛像見れば手を合せ
石原 岳(群馬県)
- 200 仏堂の軒にぎやかにつばめの巢
平山千江(岩手県)
- 201 遠足の園児恐々像見上げ
山崎吉晴(群馬県)
- 202 開高も司馬遼も又こころぶと
福岡 悟(東京都)
- 203 怒鳴り合ひ気合を入れむ老いの春
岩村 昇(神奈川県)
- 204 門前に座す佛像や春彼岸
堅田秀子(東京都)
- 205 こりやまず手を合わせ通りゃんせ
佐伯セツ子(香川県)
- 206 恋猫の阿鼻叫喚や阿吽像
津田卿雲(岡山県)
- 207 世の不正もつと怒れよ阿吽ちゃん
古閑智子(神奈川県)
- 208 花の雲歩き食いに喝仁王様
大阿久雅子(埼玉県)
- 209 がんばるぞ令和をこの目で監督し
阿部澄江(宮城県)
- 210 生ききるぞ令和の世でも仁王立ち
阿部徳夫(宮城県)
- 211 春の旅この幸に合掌道祖神
伊藤久枝(埼玉県)
- 212 眼光の鋭き王者風薫る
神 一男(静岡県)
- 213 阿形像一喝の声を聞きたいぞ
奥 那於子(大阪府)
- 214 何者かそこはへそなり馬鹿者め
青木日出男(群馬県)
- 215 仁王の目秋霜烈日検事調
居原田暹(大阪府)
- 216 仁王門遠まわりした幼き日
堀木和子(大阪府)
- 217 夏に入るこの力瘤火の匂ひ
近藤ともひろ(千葉県)
- 218 上り来て山門仁王像の前
光成高志(千葉県)
- 219 詐欺集団儂の天罰受けてみる
濱崎祥子(鹿児島県)
- 220 時折は儂も肩の荷下ろしたし
川嶋法子(東京都)
- 221 山門を出れぬ仁王や春深し
佐野和彦(静岡県)
- 222 仏像のまなざし父似春蘭くる
小澤円梨(静岡県)
- 223 現世をのがれ仁王の里若葉
本庄準也(埼玉県)
- 224 毘沙門の睨みにまよううかれ猫
宇都木安子(東京都)
- 225 復興へ自然災害ないように
五味田幸夫(東京都)
- 226 みない顔あなたはだあれ仁王様
田中豊恵(新潟県)
- 227 古刹にて喝ありがたき仁王さま
本間 進(新潟県)
- 228 閻魔様何んとお祈りしていいの?
鏡たか子(山形県)
- 229 葱坊主なんじゃもんじゃと動き出す
井田由利子(宮城県)
- 230 仏様そんなに私をにらまないで
関原幸子(東京都)
- 231 トランプが気に入りそうな面構え
橋本世紀男(東京都)
- 232 仁王の目に射竦められて立ちつくす
久本にい地(岡山県)
- 233 仏像の守る世界に桜咲く
高橋登志子(新潟県)
- 234 こら小僧こそと足元行くでない
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 235 白鵬を負かしておくれ仁王様(金剛力士)
松前邦広(千葉県)
- 236 仁王像怒る亭主と瓜二つ
合田浩子(茨城県)
- 237 仏像のぐつと睨めて威厳あり
齊藤安弘(神奈川県)
- 238 これが眼に入らぬか仁王像なるぞ!!
和崎治人(山口県)
- 239 うやまいて一行詩書く春涙
五十嵐陸博(新潟県)
- 240 平成より令和に幸多かれ新元号
渡部美代子(山形県)
- 241 外人とスマホに追われ三社祭
清水君江(埼玉県)
- 242 につとわと騒ぐ仁王や今朝の夏
椋本望生(大阪府)
- 243 あのことは許せと心仁王門
守安幹男(岡山県)
- 244 こんにちは。今年もヨロシクお願い致します。
鈴木蝶次(宮城県)
- 245 万緑の麓に古き仁王門
大津美代子(大阪府)
- 246 仁王様厳つい顔で守ってる
西山知子(岡山県)

俳句・川柳募集!!



(写真提供:伊丹三樹彦さん)

上の写真から、自由にイメージし五七五(俳句か川柳)で表現してください。応募はアンケートハガキ投稿欄にて。お待ちしております!



「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんの回答をお寄せ頂きありがとうございました！その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。
※大賞と自句自解コーナーは年1回です。

◎川柳部門

3 何も言わず逝った夫に問いかける

渡部美代子(山形県)

・私の夫も急に逝き同感でもありもつと会話があれば良かったと反省しています 小山恵美子(大阪府)・私はいつも亡き犬俵子に話しかけ守られています。もちろん亡父にも。でも天使になる時、何を言いたかったか今でも、ききたい限りです 大橋絵代(千葉県)

19 四捨五入して百歳の灯を点す

目黒豊光(福島県)

・「四捨五入して百歳」、いいですね。九十六とか九十七とか面倒臭いですね。私もその年になれたら、胸張って「百歳です」と言っているでしょう 長谷川庄二郎(千葉県)・前を見て、真っ直ぐ歩いてきた作者は、百歳を目指し何かに向かっていこうとする志に脱帽 赤池英津子(東京都)

◎俳句部門

25 冬薔薇余生の日日を逞しく

井原穂子(東京都)

・余生を生きる身として励まされる 山崎吉晴(群馬県)・余生を逞しくが新鮮な感じがした。季語が生きている 大阿久雅子(埼玉県)・冬薔薇がいいですね 日名子春実(群馬県)・人生の厳しさと希望が良く出ている 置鮎隆一(千葉県)・真紅の冬ばらのように強く元気で余生を生きぬけと教えられたように思いました 岡村君枝(茨城県)

39 ひらがなのやうにやはらか春の雪

関山恵一(神奈川県)

・関山さん「年間大賞」おめでとうございます。今回も、ひらがなのやう

にの措辞がいいですね 高松玲子(埼玉県)・ひらがなと旧かな使いが引立

て役としてよい 近藤富夫(東京都)・ひらがなが良い。カタカナだったら夕立か 居原田暹(大阪府)・この通りだと思ふ。すぐとける雪 早乙女文子(埼玉県)・さわやかすがすがしい。日常感が伝わってくる 五味田幸夫(東京都)・淡い春の静寂を感じる。庭の雪を見ているのかな 村田吉雄(東京都)・春の雪は降っても降っても積ることなくひらがなにとえたとらえ方が良かったと思ひます 鷲谷浅子(茨城県)

51 まんまるの笑顔百歳春隣

小島岳青(新潟県)

・さらっとした初句会の場合がよくわかる句 松田重信(埼玉県)・年をとるとおだやかな顔になる、父を想い出した。自分もこうなるといいなと思ふ 長峰正晴(千葉県)・春を迎え白寿ブラス一才。お目出とう健康第一、得意満面、うらやましい限り 上村元義(神奈川県)・母を思い出してうれし

心になりました 伊藤久枝(埼玉県)・長寿の秘訣でしょうか。まんまるの笑顔が良いですね 川嶋法子(東京都)・こちらまでにここにこ笑顔になってしま

ます 井田由利子(宮城県)

71 蜆汁まだ箸立に妻の箸

田中 昶(鳥取県)

・人生の伴侶をなくされた作者の気持ちが良いわかります。季語の蜆汁も効

いている 鈴木清子(埼玉県)・妻に先

立たれた寂しさといつまでも変わらな

い愛おしさが伝わってきます 白松い

ちろう(千葉県)・最愛の奥様とのお別

れを偲ばれ言葉もありませぬ 堅田秀

子(東京都)・悲しくて。「蜆汁」質素

な生活を今後とも続ける覚悟 湯浅芳

郎(岡山県)・妻に先立たれたご主人の

想いを感じる一句。私としても箸の処

分に迷う一句です 鈴木蝶次(宮城県)

・奥様の箸、簡単には処分できないで

すよね 今井勝子(新潟県)

◎短歌部門

158 新元号寄せる平和を願う民平成の

こと戦さの無きを

坂元正憲(東京都)

・私達はこの歌通りの平和の御代を願っております 野木宗信(奈良県)・七十年の平和をもっと大事に感じ心し

よう 石尾曠師朗(東京都)・満州(中

国東北部)で終戦を経験した身、平和

の尊さを感じております 守安幹男

(岡山県)・平和が一番です。幼少にB

184 しみじみと孤独の我を慰むる一合

の酒おぼろ月夜に

久本にい地(岡山県)

・健康のためのお酒。もつと飲めば

孤独でなくなる？ 早坂紘司(北海道)

・孤独の哀愁を忘れさせる一合の酒に

いやされるおぼろ月もしみじみと伝わ

ります 津田卿雲(岡山県)・しみじみ

おぼろ月夜に一合の酒がいいかも 岩

崎政弘(岡山県) ほか

◎フォトイック

今回大賞はありませんでした。

◎他にも

22 嘘は一流進化忘れた厚労省

石尾曠師朗(東京都)

23 冗談を真面に受けし四月馬鹿

天野輝子(東京都)

44 戦さ無き平成惜しむ去年今年

山崎吉晴(群馬県)

47 忘れざらめや三月十一日

福岡 悟(東京都)

59 懸大根三崎の夕日集めけり

堅田秀子(東京都)

77 嫁ぎゆく孫への一句さくら満つ

大谷 茂(埼玉県)

87 炊きたての御飯のような春日かな

杉村美保子(岩手県)

101 お湯割のほのかな酔や名残雪

佐藤 信(神奈川県)

168 暎閉ず「山」「川」「峠」浮かび来

る過疎進みゆくふるさとの村

寒川靖子(岡山県)

173 若きらに見守られつつ共に住み気

負うことなく今日も脳トレ

野木宗信(奈良県)

179 国家民族貧富のあれば人類のかな

しき性や戦争とテロ

村山徳英(埼玉県)

185 美ら海を潰せる基地の建設に人々

の怒り高く響ける

関原幸子(東京都)

218 おかあさんどうぞといえる娘に育ち

田中豊恵(新潟県)

※今後もふるってご投稿をお願いいた

します！

Q 前回のアンケート
七夕の思い出や、各地の
風習を教えてください。

思い出

★七夕飾り・七夕まつり

七夕飾りを一緒に作った留学生から
便り届くも天の川

合田浩子(茨城県)

わが家の竹林の笹竹に屋根より高い
飾りをつけた 寒川靖子(香川県)

我が家は庭の竹に毎年七夕飾りをし
ていました 若月理依子(新潟県)

学童保育の仕事をしている時は大き
な七夕飾りを作った

星 一子(神奈川県)

教室中に七夕飾りを下げた
渥美 保(滋賀県)

兄弟姉妹で折り紙でいろいろ飾った
寺内 侖(埼玉県)

交互にハサミで切って網目の蜂の巣
ができたときは嬉しかった

濱崎祥子(鹿児島県)

幼稚園頃と十三クラスがテラスに
アーチに仕上げくぐる

大鳥居牧子(東京都)

震災のあった年、仙台市内の小・中
特別支援学校全ての学校が参加し
て大きな七夕飾りを作った

早坂保文(宮城県)

孫が保育園で作った小さな七夕。な
かなか捨てられなかった

大阿久雅子(埼玉県)

仙台七夕
鈴木義雄(福島県)

仙台七夕は見ごたえがあり、素晴ら
しい。是非お越し下さい

井田由利子(宮城県)

自転車旅行で初めて見た仙台の七夕
津布久信雄(東京都)

若いころ仙台に勤めていた。数年前
仙台に行き七夕保存館も見学

石原 岳(群馬県)

仙台の七夕祭り、東北大の学友と
「青葉城恋唄」を合唱した

古谷 力(東京都)



友人と平塚の七夕を見に行った

赤池英津子(東京都)

平塚市で催されている七夕祭りに
いった 岩田 信(神奈川県)

平塚商店街の競い合う見事な飾りが
忘れられません 天野輝子(東京都)

七夕祭の屋台(村上市)について歩
いた子供の頃 齋藤麦堂(新潟県)

小川町、入間川(狭山市)の七夕に
人気があります 大谷 茂(埼玉県)

深谷の七夕祭(中仙道深谷宿)は凄
かった 原 崇雄(埼玉県)

神奈川県厚木の七夕飾りがすばらし
かった 片山茂子(埼玉県)

杉並阿佐ヶ谷七夕祭りは毎年八月に
五日間行われる 内河邦久(東京都)

福島県いわき市平の八月七日七夕祭
有坂馨園(福島県)

八月七日の七夕まつり、夏休み中
だったので弟や妹とワイワイ飾った

ユニークな言葉などにぎやかでハチャ
メチャな七夕 松田重信(埼玉県)

孫は短冊にウルトラマンになれます
ようにと書いていました

稲葉民雄(千葉県)

園児のころのみなで作った短冊はい
つまでも心に 本間 進(新潟県)

家族の願い事を書いて、五色の短冊
を楽しんだ 阿部澄江(宮城県)

願いごとばかりの短冊をいっぱい
飾った 高崎登喜子(東京都)

願い事多くて何枚も書きました

川嶋法子(東京都)

兄弟みんなで願い事を書いた。星も
きれかった 小山恵美子(大阪府)

今は遠くイスラエルに住む孫の七夕
笹に願いを、心をこめて書き折った

字が上手になりますようにと笹に短
冊をつるした 中田文子(大阪府)

妹・弟二人母と五人で短冊に願いを
書いた 本田智恵子(東京都)

幼稚園での七夕づくり。字がうまく
書けず絵をかいた

願いが大きく一つも叶いませんでし
た 松前邦広(千葉県)

どこまで叶ったのでしょうか

どこかで調達して来たのか笹を担いで
玄関に入る父の姿

七夕飾り用の竹を切りに川べりに出
かけた 橋本世紀男(東京都)

七夕竹を見つげに家族で行き夫が品
定めをした 倉沢ひとみ(静岡県)

毎年七夕の竹を用意してくれた父の
やさしさが忘れられません

村山徳英(埼玉県)

小麦粉とタンサンとアンコで饅頭を
二〇〇ヶ位作った

母とご馳走(おいなりさん)を作っ
た 伊藤久枝(埼玉県)

★流しに行った

七夕笹を祖母といっしょに海へ流し
に行った 堀木和子(大阪府)

海辺で育った私は、毎年海へ流しま
した 三津木俊幸(千葉県)

七夕の飾りを最上川の橋の上より流
した 本庄準也(埼玉県)

小学校時代、橋の上から七夕飾りを
学年毎に流した 吉村充治(埼玉県)

大きな竹に夢中で飾り、終ったら近
くの川へ流しに行った

細川光子(栃木県)

★その他

「どさの葉さらさら…」と唱歌をう
たったこと 齊藤安弘(神奈川県)

よその庭の黒竹を無断で切ってしか
られた 濱田イサオ(福岡県)

おだんごを供え莫蓮にねころんで二
人の姉と星を数えた

堅田秀子(東京都)

笹竹が萎れないように切口に塩を詰
めてくれた母 平山千江(岩手県)

子どもが小学生の時学校で七夕音楽
祭をやりました

小田ゆかり(新潟県)

七夕の日よったペット屋で二十日鼠を
買ってもらえた 白戸麻奈(東京都)

七夕飾りを作り、裏の川を堰き止め
手製の船で遊んだ

白松いちろう(千葉県)

小学校に勤めていた時「七夕集会」
で、織姫と彦星の劇をやっても
楽しかった

関原幸子(東京都)

・孫の通う小学校生全員の前で、七夕飾りを背に俳句の講義をした

仁藤ひろじ(埼玉県)

・外へ出て二つの星を探しますが曇り空で見えなくなり昼にプラネタリウムに行ったら 中山日出子(大阪府)

・浴衣を着せてもらい庭に出て夜空を仰いだ 鈴木蝶次(宮城県)

・露店で買った海ほおずきを友達同士取り替えっこをして鳴らして遊んだ 岡村君枝(茨城県)

風習

・「きょうもさんちよあしたもさんちよ」と唱えながら竹飾りを持ち各家をまわる 一瀬正子(埼玉県)

・「なのか日」と言って河原で水泳ぎし男の子は小屋を建て自炊し泊った 鏡たか子(山形県)

・「七夕様は瓜の水に流された」と言って胡瓜はお供え物にしなかった 高垣勝代(大阪府)

・なつやみせぬ様に子や大人の名前を「てふちん」に書いて笹竹につるして町内を祈ってねり歩き川でもやし、お菓子を頂く 高須 孝(愛知県)

・愛媛の七夕は八月七日で七夕飾りをして提灯を持って町内を皆で回った 井上氣海(広島県)

・願い事を書くのに、早朝稲の露を集めて墨をすった 久本にい地(岡山県)

・何事も七度するとよいと言われていた。七度泳ぐ、七度食べるなど 守安幹男(岡山県)

・子供達が「ローソクだあせ。だあせよ。出さなかつたら、かつちやくど」と各家庭をまわり、お菓子等をいただく 久保壽雄(北海道)

・七夕飾りの最後は野菜畑に移す(虫除けの迷信による)

西條公雄(埼玉県)

・祖母のお迎え団子、送り団子。形を変えて団子を作っておそなえた 古閑智子(神奈川県)

・日本語学校で外国人留学生に日本の風習を体験させている 伊藤 修(埼玉県)

・墨は芋のつゆを茶碗にとりすった筆字 檜山柚子香(東京都)

・里芋の葉から朝露を集め墨を摺り、夕方には芋を掘り、鮮やかな赤いさつま芋を七夕飾りと共に備えた 九法活恵(埼玉県)

ほか

・ミス七夕に成りたかった

吉里ひとみ(東京都)

・「七夕」：これがどうして「タナバタ」と読むのかわかりませんでした 関本 守(新潟県)

・螢狩り 野木宗信(奈良県)

・ショッピングセンターの特設コーナーで願いごとを書き笹に結ぶ 中村康浩(福岡県)

・一人身となり孫達へ短冊で七夕の思いを書いて送る 夏井寛治(新潟県)

・京阪駅の七夕竹に、毎年短冊を3、5枚書いてつるす 中村久仁子(京都府)

・近所の浴衣姿の女の子に憧れていた 置鮎隆一(千葉県)

・小川町の七夕の日は予約しないと食事が出来ません 溝畑美代子(埼玉県)

・高幡不動の短い参道の七夕は幼稚園児の願いがいっぱい書いてあります 峯岸信子(東京都)

・故郷の津軽の漁村には七夕がありませんでした 張山てる子(東京都)

・三十余年、校区で暮らしている同窓生が毎年集まる会が七夕会 田中豊恵(新潟県)

・子供達の願い事の内、一つを叶えてあげた 近藤ともひろ(千葉県)

・毎年年に飾った七夕飾りをながめ娘と妻とワインで乾杯 阿部徳夫(宮城県)

・わたしは俳句を短冊に書いて織姫に返事待ってます 村田吉雄(東京都)

・町内の公園で病院患者と地域住民との交流七夕 田中 昶(鳥取県)

・低いところにつるし道行く人に読んで貰います。俳句とか歌の好存在

清まさじ(静岡県)

・特養老人ホームでも飾り付けをやった 宇田川正雄(埼玉県)

・八月七日に行います 小澤円梨(静岡県)

・天の川を楽しみにしているのにもくもりや雨。天気が悪くても大丈夫、おふたりは逢っているとのこと 大橋絵代(千葉県)

・見事な天の川をみたい夢未だ実現出来ず 宇都木安子(東京都)

・娘の誕生日です。先生の都合でこの日になったのは娘に内緒 松尾らん(東京都)

七夕祭り

各人各様、地域やご家庭によって様々な思い出や風習のある七夕祭り。そこで、北海道・函館で生まれ育った、パティオ俳句会主宰の環順子さんに、北国の印象深い七夕祭りの思い出をお寄せいただきました。



主宰 環順子さん
パティオ俳句会

「函館に生まれて十五歳まで過ごした。ふる里函館の四季折々の行事はどれも楽しい思い出がたくさんある。とりわけ今でも忘れられない行事の一つに「七夕祭り」がある。すでに六十年以上もの光陰が流れた……」

七月七日の夜、浴衣に着飾った子供たちが「竹に短冊七夕祭り、ろうそく一本ちようだいな」と、歌いながら小さな提灯を提げて家々を廻るのである。町内を廻れば、家に帰るころには、頂いたろうそくで袋の中はいっぱいになる。

七夕の夜に何故このような子供たちの提灯行列があったのか、今もって解らないままである。北国の幼い子供たちの一日だけの楽しい夜である。このような行事もその後、時代とともに少しずつ変化しても、今もなお続いていることをついでに、先ごろ知った。

年を経るほどに、あの夜の提灯の灯りが、昨日のことのようにゆらめいている。



編集室だより

生きているといろんなことが起こります。一日の中でもあんなこと、こんなこと、ほんといろいろとありますね！ そんな日常に転がる喜怒哀楽を、編集室よりお届けします。

本の「修理」 before→after

傷んでしまった本、修理いたします。このたびお手伝いさせていただいた新潟県S様ご愛用の辞書、修理前と修理後をお写真で紹介いたします。



S様からは「新品以上の出来栄に何度もさすっては眺め、幾たびも字を引きうれしくて炬燵の上に置き眺めております」とのお手紙をいただきました。もしかしたら、買った方が安いかもしれませんが、第3版はもう出ていません。S様にもお喜びいただき、私どもも嬉しく思っております。

本の修理や、今までの著作を一冊にする合本、引き続き承っております。大切にしたい一冊がある方、どうぞご用命ください。

4月に新入社員を 迎えました

本誌を発行している(株)ミューズ・コーポレーション 喜怒哀楽書

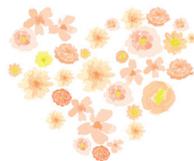


房に、新卒のニューフェイスが加わりました。松野沙依と申します。

辞令と歳時記を持ってパチリ。写真右の男性は社長の木戸敏雄です。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

温かいカンパ、誠に ありがとうございます…!!

これまで送料のお振込み先として利用していた郵便局口座をカンパの受付先とさせていただきまして、このたびたくさんの方より温かいカンパを頂戴しました！ 本当にありがとうございます…!! 皆様からのお気持ちが伝わってきて、胸がぎゅーっと、熱くなりました。「詠み人応援マガジン 喜怒哀楽」発行のため、大切に使用させていただきまして。そして、本誌が皆様にとってのよき広場であり続けられるよう、ますます励んでまいります！



カルチャースクールを 開講します

多くの方に本づくりを楽しんでいただきたいという思いから、弊社の母体である木戸製本所グループでカルチャースクールを開きます。講座名：はじめよう！パソコンで思い出アルバムづくり

内容：パソコンを使い専用ソフトでフォトアルバムの編集を行い、ご自身の手でハードカバー製本を行います。世界で1冊だけのフォトアルバムが出来上がります。

場所：イオンモール新潟南
ジュージャ
JEUZIAカルチャーセンター
開講期間：6月～ 第1と第3火曜日
13時～15時

受講料：全5回12,000円+材料費4,000円+別途入会費(全て税別)
※65歳以上の方は入会費が無料
お申込み・お問い合わせ:0120-819-395
※上記変更の可能性がありますことをご了承ください。

初心者の方でも大丈夫です。私たちと一緒に、本づくりにチャレンジしてみませんか。



スタッフ木伏の親孝行

親孝行にはいろいろな形があると思います。当社スタッフの木伏は、ご両親の結婚記念日に向けて写真集を制作しています。感想を聞きました。

——常々実家の大量の写真をどうするかが悩みの種でしたが、両親の結婚から今までの写真を姉妹で約60枚選びました。この60枚に厳選するのが一番大変です。でも姉妹で「この時はこうだったね」「こんな写真あったんだ」など家族の思い出を話せて、自分たちが愛されて育ててもらったことを感謝するいい機会でした。いろんなかたちの親孝行があると思いますが、写真の整理、写真集のプレゼントという方法もありますよ。



↑お孫さんの手紙や絵も入った一冊
ご興味のある方、お気軽にご連絡くださいませ。



▲落谷虹児『夢見童子』原画) 1958年、個人蔵

にいがたの映画人

大川博と落谷虹児

伊豆名 皓美

2019年度前期放送のNHK連続テレビ小説『なつぞら』では、日本のアニメーションの創成期が描かれています。広瀬すずが演じる地方出身のヒロイン・奥原なつモデルは、アニメーター・奥山玲子(宮城県生まれ、1936～2007年)です。東映動画(現・東映アニメーション)で活躍し、日本アニメの草創期を支えました。そして、東映動画の事実上の創業者は、新潟市西蒲区(中之口)出身の大川博(1896～1971年)です。

大川博は、東映動画を創業する前に親会社・東映の社長を務めており、その時の海外視察で「映画事業の発展のためには輸出を拡大しなければならぬ」と痛感しました。そこで、海外進出につきものの言葉のハンディキャップが少ないアニメーションに可能性を見出したといいます。アニメは、基本的には絵で見せるものだからです。これが契機となり、東映は「東洋のディズニー」を目指してアニメーションへの本格参入を決めたのでした。東映動画の果たした最大の功績は、ディズニーを始めとするアメリカの大手各社の制作システムを導入したことでした。従来の作家とアシスタントによる家内手工業業に対し、役割分担を明確にした分業式の制作システムを採用したのです。

東映動画創業2年後の昭和33年、日

本最初の長編アニメ映画『白蛇伝』が制作されました。中国の伝記ロマンが題材です。映画の予告編には、社長として大川博自らが登場し、「世界に広く進出したい」と心意気を語っています。劇場用長編アニメーションの本格的な国産化を高らかに謳い、かつ新たなエンターテイメントの開拓を宣言しました。実際、『白蛇伝』は日本初の本格的フルカラー長編アニメで、現在でも日本のアニメ史、映画史の記念碑的作品と捉えられています。公開後も繰り返し上映され、この作品を観てアニメーターを志した人材は数多く、手塚治虫・宮崎駿らが刺激を受けたそうです。

さて、東映動画で『白蛇伝』と並行して制作されたのが『夢見童子』でした。新潟県新発田市出身の抒情画家・落谷虹児(1898～1979年)が原画・構成・演出を務めた16分間の映画です。作品は、落谷虹児らしい繊細かつ明確な線と美しい色彩に彩られています。落谷虹児はこの映画で監督業だけでなく、宣伝広告のデザインまで一人何役も担当しました。このマルチなプロデュース・スタイルは、のちの宮崎駿のスタイルの先駆けとなりました。また、従来のアニメでは、インクにディズニー・プロのものを使用していましたが、『夢見童子』では試験的に国産のインクが使われました。それが、並行して制作されていた『白蛇伝』に本格運用されたことから、『夢見童子』は『白蛇伝』の成功に大きく寄与したといえます。

近年、日本はマンガやアニメの先進国をもって任じ、これらのアートを最先端の文化産業に位置づけようとしています。にいがた文化の記憶館では、日本のアニメ産業の礎を築いた大川博、そしてアニメーション監督としての落谷虹児を再評価しようとしています。

■ 展覧会情報 ■

企画展示「にいがたの映画人」

会期：6月8日(土)から8月25日(日)
第1部[新潟に残る東映アニメの足跡] 6/8(土)～7/15(月祝)
第2部[にいがたの映画人] 7/19(金)～8/25(日)
休館日：月曜日(7/15、8/12は開館)、7月16日(火)～18日(木)、8月13日(火)

■ 関連イベント ■

① 杉井ギサブロー監督と津堅信之氏による対談(先着90名)

7月14日(日)午後2時～3時半。大川博と東映動画についてお話し頂きます。杉井監督は『白蛇伝』制作中の東映動画にアニメーターとして入社しました。代表作は『タッチ』、『銀河鉄道の夜』など。津堅氏はアニメーション研究家、日本大学芸術学部映画学科講師。著書に『ディズニーを目指した男 大川博』など。

② 中島貞夫監督の講演会(先着200名)

8月18日(日)午後2時～3時半。大川博とにいがたの映画人についてご講演頂きます。新潟市立沼垂高校卒の女優・岡田茉莉子出演の映画『序の舞』の監督です。2019年、『多十郎殉愛記』で長編劇映画の監督を20年ぶりに務めました。

①②ともに、お申し込みが必要です。

詳しくはにいがた文化の記憶館(☎025-250-7171)までお問い合わせください。

“ありがとう”俳句人生に乾杯!

3

4年間にわたり本誌に「食楽句楽」のコーナーで縦横無尽にペンを走らせていただいた岩田桂さま。俳句によって人生をより豊かで充実したものとされてきた、その俳句人生の一端を6回にわたり雄弁に語っていただきます。

句づくりの基本ルールは3つだけです

岩田 桂

皆さん、俳句は難しいから自分には向かないと背を向けていませんか。もちろんレベルの高い俳人や句会との交流には、勇気や意気込みが要ります。しかも私にはそのような才能がない。だからやる気にもならないのだあゝ、と最初から諦めているではありませんか。

大丈夫ですよ、その諸兄殿。たしかに俳句文化には様々な伝統や掟、ルールがあります。それを身につけるには、少し努力が要ります。だからペンを握ったことのない人ならば、拒絶されるのは当然です。

そこでご提案です。句づくりの基本ルールは、3つだけ理解すればOKというお勧めです。それを2回に分けてご説明させていただきます。今回はその1回目です。笑ってお読みください。まずはその看板です。

〈俳句の基本ルールは3つだけ〉

- 1、季語をひとつ入れる
- 2、切れ字（や、かな、けり…）を一箇所に
入れる
- 3、五七五の十七文字で詠む

以上の3点を守り、あとは、左脳と右脳の働きを融合させながら、表現するだけです。「十七文字のカメラマン」になることです。



では具体的にいきますよ。

〈俳句の基本的な描き方〉

1、俳句の作り方（描き方）

（1の1）、俳句は季語のもつ力（情報）を利用する最短の詩文
学です。しかも季語をひとつ入れるだけです。ただし
季語を説明する詩文学ではありません。

たとえば…

秋の月 あおぎ眺めて 思い干々

いかにも名俳句らしき作品ですがルール違反の見本です。

この句を分解すると…

秋の月…：月は秋の季語です。秋は不要。

あおぎながめて…：仰ぐのはあたりまえのことです。

思い干々…：個人の感情で、読者には関心ありません。

結局はこの句意は、「月」という季語だけで、すべてが表

現できます。季語を説明しているだけです。

これを水ぶくれ俳句といいます。最も多い愚作の代表例です。

私の俳句への教えは、この描き方の出会いからです。そうか、俳句とは季語を一つ入れ、切れ字を入れて、言葉と言葉の間に空間を入れればいいんだあゝ、と膝を叩きました。才能とか教養とか、そんな能力は不要な文学なんだあゝ。俺にでも句づくりできるんだあゝ。

私の俳句人生は、このような学びから始まりました。「文字のカメラマン」として…。

※4月28日(日)の朝日新聞俳壇欄で岩田さんの俳句が長谷川
權選、高山れおな選と2句も選ばれました。おめでとつござ
います!!

良第11回 こもろ・日盛俳句祭

7月26、27、28日(金～日)の3日間、長野県小諸市で「第11回こもろ・日盛俳句祭」が開催されます。

【会場】[主会場] ベルウィンこもろ

[講演会等] 市民交流センター ステラホール

【吟行(午前)】市内吟行：懐古園、北国街道街並、虚子の散歩道他 徒歩で 郊外吟行：マンズワイン、氷室見学、読書の森を巡回 先着順

【句会(午後)】6つの会場に分かれて開催

5句出句 5句選句 120分

※26、27日には句会後、講演会やシンポジウム、懇親会などを開催予定。

【参加費】1日券：2500円 2日券5000円

3日券：7500円 (当日券3000円)

【応募締切】7月19日(金)必着

【お申込み・問い合わせ】(水曜日定休)

〒384-0006 小諸市与良町2-3-24 市立小諸高濱虚子記念館 第11回「こもろ・日盛俳句祭」実行委員会事務局
TEL 0267-26-3010 FAX 0267-26-3011

E-mail: kyoshi@city.komoro.nagano.jp

令和記念!御朱印帳はいかがですか。

新しい元号「令和」を記念した御朱印帳を「喜怒哀楽」読者の方に特別に販売します。表紙は白い布にスッキリと黒の箔押し、裏は落ち着いた茶色の布、ビニールカバーをお付けして1冊2500円(送料込み)。本文は特殊和紙です。新しい時代に新しい御朱印帳で参拝の印を残しませんか。



国民文化祭「詩フェスティバル」 ～花火と良寛の地で～

作品募集の詳細については前号「喜怒哀楽4-5月号」でお知らせしましたが、募集期間が1か月延長されましたのでお知らせします。

■募集期間延長のお知らせ

【応募締切】7月31日(水)※当日消印有効

【テーマ】「良寛・花火」、長岡・柏崎エリアの自然風景・祭・イベント・文化など発想を自由に展開させた俳句・短歌・現代詩(自作・未発表の作品)

【応募料】俳句・短歌 2作品1組、

現代詩 1篇 各1000円

【振込先】郵便振替口座 00520-0-103534

加入者名「ことばフェスティバル係」

■新たに下記イベントを予定しています

日時：10月26日(土) 13:00～16:00(予定)

入賞作品の表彰式や、楽しいアトラクション

会場：柏崎市文化会館アルフォーレ

日時：10月27日(日) 9:00～16:00(予定)

選者と行く吟行バスツアー

※長岡、柏崎から、良寛さまのふるさと出雲崎方面へ向けてのツアー(有料:昼食付)

【問い合わせ・送付先】〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1(新潟県文化振興課内)「ことばフェスティバル」係

Tel 025-280-5933 Fax 025-280-5221

HP <https://niigata-futtotsu.jp/kotofes/> E-mail:kotofes@pref.niigata.lg.jp



野菜のポストカード

1セット12枚入り1000円(送料込み)。今回はとうもろこしを同封しました。美味しそうな野菜で、季節のメッセージを送りませんか。ご注文は同封の振込用紙をご利用ください。



※御朱印帳、ポストカードとも、ご希望の方は、郵便、お電話、FAX、メールにてお申込みください(P16下段参照)。



スタッフの一言

Q.七夕の思い出や、各地の風習を教えてください。

木戸敦子



家族が多かったのも、子どもの頃は色紙で輪飾りや短冊を作りみんなが書けるよう準備をしていたっけ。ちなみに娘は「コギャルになれますように」。今では臺の立った大ギャルに。

古川久美子



給食の、七夕ゼリーが楽しみだったことが思い出される。お星さまがゼリーの中に入っていた。ここ最近はずっと職場で飾りを飾っています。

菅真理子



子どもの頃に行った仙台七夕まつり。父が肩車してくれ、飾りが手に届きそうだった。入社後は、玄関に飾る笹に皆で願い事を書くのが楽しみです。

山田民子



短冊に願いを込めて「ゲームがほしいです」「ケーキが食べたい」果ては「痩せますように」などと、我が家の短冊は煩惱のかたまりが吊るしてありました。

木伏美恵



わが家に『まんが日本昔話』全集があり、何度も読んだ「七夕さま」。絵がちょっと怖かった。天女の羽衣に憧れて適当な布を巻いていた。

上村眞智子



カッターを手に石山さんが職場の近くの廃材置き場のような草ぼうぼうの空き地に入り笹と格闘していたので手伝った思い出がある。子どもの頃は七夕飾りを買って駄菓子屋へ行った。

石山由希子



子どもたちが小さかった頃、職場の近くの怪しい空き地から笹を採って家で飾りました。たしか同僚の上村さんが自転車を通りかかって手伝ってくれたっけ。

吉田瞳



子供が保育園のとき、折り紙で七夕飾りを一緒につくって飾ったこと。あとNHK朝ドラの半分青いのヒロインが七夕生まれだったことを思い出します。

佐々木祥子



七夕近くなると、学校やお店などいたるところに笹と短冊が飾ってあるので、人が書いた願い事を眺めるのが好きです。

歌舞伎を詠む

團菊祭

小泉芝雲



5月の歌舞伎座といえば「團菊祭」。舞台はもちろんのこと、幕間には食事やスイーツ、歌舞伎ならではのグッズを購入する楽しみもあります。非日常のテーマパークを様々な角度からご堪能ください。3回目も、待ってました！

歌舞伎関連季語ではないですが、歌舞伎界には季語的存在として「團菊祭」があります。その「團菊祭」とは明治期劇団で多くの功績を残し、明治三六（一九〇三）年に没した九世市川團十郎（成田屋）と五世尾上菊五郎（音羽屋）の両優を偲ぶ歌舞伎興行を言います。昭和十一（一九三六）年に始まり一時中断はあったものの、昭和三六年以降毎年五月に開催されるようになり、両優の当たり狂言を、所縁の俳優が顔を揃え演じ、その豪華さが評判となり今日まで及んでいるのです。

その九世團十郎とは、歌舞伎十八番を制定した七世團十郎の五男で、「劇聖」と仰がれた名優です。演劇改良運動を起し、史実を写す「活歴史」と呼ぶ史劇を創始し、又『高時』、『紅葉狩』、『鏡獅子』等を含む「新歌舞伎十八番」を制定しました。又、俳句にも通じ、俳名として三升、團州（西郷隆盛を尊敬し南洲にあやかると、等を名乗っていました）。

世の中や外から見えぬ柿の渋

三升

一方の五世尾上菊五郎は市川家と並ぶ二百五十年以上の歴史を持つ名門の出で、写実的演技・手順の決まった型による形式を重んじる芸風に特色を發揮し、お馴染みの勘平や『河内山』の直次郎、『め組の喧嘩』の辰五郎のような生世話物で粹な江戸っ子を演じるのが得意でした。新作舞踊では『茨木』、『土蜘蛛』等を作り、新古演劇十種を制定しました。俳名は梅幸と名乗り、此の二人は、歌舞伎界に於いて俳句の子規が主張した「写生」を実施したと思われる。

処で、私が初めて「團菊祭」を観たのは、学生時代の昭和三九年であり、当時大人気の十一世團十郎の菅承相による「道明寺」が印象に残っており、筋書には歌舞伎好きな水原

秋櫻子がその月の出し物を次のように俳句（「道明寺」より）に詠んでいます。

土師の里遠世のさまに霞みけり

秋櫻子

因みに、当時の三階席の値段は二百円（現在は三階B席四千円）でした。

昭和六十年五月は十二世團十郎襲名をメインとする「團菊祭」であり、お家芸の『勧進帳』、『助六』、『暫』、『外郎売』（親子で）が上演、筋書には次のような一句がありました。

十二代團十郎や春うらら

宇野 信夫

平成十五年の「團菊祭」は歌舞伎四百年記念及び九世・五世没後百年を記念してのもので、十二世團十郎の『暫』、七代目菊五郎の『髪結新三』が印象深く、このように当代の團十郎・菊五郎が共演することが一番の魅力なのです。しかし十二世團十郎の死去（平成二五年二月没）によりそれが無いのは寂しい限りですが、来年の「團菊祭」では海老蔵が十三代目市川團十郎白猿（白猿は俳名）を襲名、息子勸玄君が八代目新之助として初舞台を踏むことが決まっております。令和元年の「團菊祭」は平成の三之助と言われた海老蔵、菊之助、辰之助（現四代目松緑）による『勧進帳』や、菊之助の息子七代目丑之助が初舞台（半若丸として登場）を踏み舞台を盛り上げました。

木の芽時初舞台踏む御曹司

芝雲

歌舞伎はこの團菊が中心となり今後も盛り上がっていくでしょうから、当に「團菊祭」の意義は大きく、俳句の季語にもなっているほしいものです。

本日はこれ切り

2019.6-7. vol.104 (2019年6月10日発行/隔月発行)

●発行・印刷/株式会社ミュージック・コーポレーション

〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29

TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550

喜怒哀楽書房



株式会社ミュージック・コーポレーション

☎0120-819-395 Facebookもチェック



e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社ミュージック・コーポレーション

編集後記

4頁で掲載した蟻人さんの記事。最初は玄関先で、途中からはベッドで仰向けになってお話くださった。写真も友人はだし、自身を撮る私を心配するような表情の写真が残っている。しかしご本人はもうこの世にはいない。ただ、蟻人さんが企図し撮影し詠んだ時々の俳句が『蟻旅する』の一冊として確実に残っている。蟻人さんのものがこの本には息づいている。母が亡くなり、母のよすがとなる本を作ったことから始まったこの仕事。今でも立ち返る場所であり、家族の心の拠り所であり、作って本当によかったと思っている。それができる時は、いつでもあるようにいて、そうはない。(木戸敦子)